



2012年度 新年度開講

火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
				13:30 YT 週例・解説 おはなし
				14:00 おはなし
				14:30 おはなし
				15:00 おはなし
				15:30 おはなし
				16:00 おはなし
				16:30 おはなし
				17:00 5 受検理科 6 受検社会 6 受検社会
5 公立理 6 公立文 5 受検算数 5 受検国語 6 受検国語 6 受検国語	5 英語 6 英語 4 受検算数 5 受検理科 5 受検理科 6 受検社会 6 受検社会	5 公立理 6 公立文 5 受検算数 5 受検国語 6 受検国語 6 受検国語	4 算数 3 国語 2 算数 5 受検理科 6 受検社会 6 受検社会	5 受検理科 6 受検社会 6 受検社会
5 算数 6 国語 5 算数 5 受検国語 6 受検国語 6 受検算数	5 国語 6 算数 5 国語 6 算数 4 受検国語 5 受検理科 5 受検理科 6 受検社会 6 受検社会	5 算数 6 国語 5 算数 5 受検国語 6 受検国語 6 受検算数	5 国語 6 算数 4 算数 3 国語 2 算数 5 受検社会 5 受検社会 6 受検理科	5 受検理科 6 受検社会 6 受検理科
5 国語 6 算数 5 国語 6 算数 4 算数 5 受検理科	5 算数 6 国語 5 算数 5 受検国語 6 受検国語 6 受検算数	5 算数 6 国語 5 算数 5 受検国語 6 受検国語 6 受検算数	5 算数 6 国語 4 算数 3 国語 2 算数 5 受検社会 5 受検社会 6 受検理科	5 受検理科 6 受検社会 6 受検理科
				19:00 5 算数 6 国語 4 算数 5 受検理科
				19:30 5 算数 6 国語 4 算数 5 受検理科
				20:00 5 算数 6 国語 4 算数 5 受検理科

中学受験コース

土曜テスト教室

二〇一二年

Y-Tテスト

SHOSHIN
オープンテスト

小学部湘進コース

小学二年湘進コース

小学三年湘進コース

小学四年湘進コース

小学五、六年湘進コース

公立受験コース(五、六年生)

英語コース(五、六年生)

継続手続きについて

SHOSHIN

S

のびる

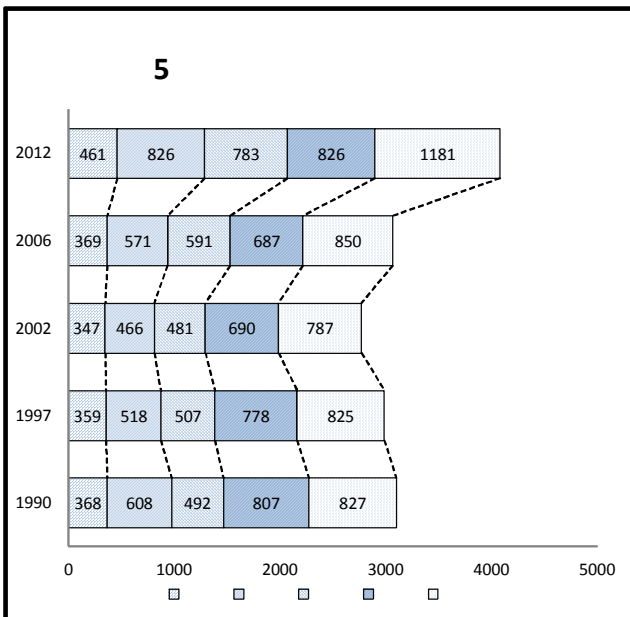
現中学二年生が高校を受験する再来年度から、神奈川県公立高校入試は大きく変わります。そのうち、受験生に大きな影響を与える変更点は次の三点です。第一点、前期選抜が廃止されること。第二点、全受験生に面接試験が課せられること。第三点、独自入試が廃止されること。▼第一点の前期選抜廃止については、私は個人的に大賛成です。「ゆとり教育」の延長から前期選抜制度が採用されたのでしょうか。公立中学生に「勉強するな」と言わなければならないのは、受験生から努力することの尊さを奪いました。その結果、内申点のみで実力の無いまま高校に入学したものの授業についていくことができず、あげくの果ては中途退学してニートになる青年や、点数の足りない大学生を数多く生み出しました。「入学試験のない入学試験」とも言うべきこの天下の愚策が廃止されたことは健全な高校入試制度にとっては結構なことだと私は思っています。▼数年前、神奈川県公立高校で面接時の服装が乱れていたことを理由に受験生を不合格にし、大きな話題となったことがありました。今回の入試制度改革で、全受験生に面接試験を課すことになったのは、あるいはこのような先例があったからかもしれないと勝手に推測しています。入試の可否を決める側から見れば、面接試験を取り入れたい気持ちは分らないでもありません。しかし、わずか数分の、しかもグループによる面接でどれだけ受験生個々の性格や将来性が分かるのでしょうか。面接試験が取り入れられれば、あらゆる面接も飛び交うものです。ほんのわずかでもダーティーな部分を混入させないために、面接試験を廃止する私学が増加しています。このように考えると、面接試験が合否に大きく影響を与えることはほとんどないと判断できます。▼独自入試の廃止、このことが公立高校受験生に最も大きな影響を及ぼす点です。私は仕事柄、全国の公立高校入試問題に毎年目を通しています。その中でも、神奈川県の入試問題は非常に易しく、全教科で満点を取ることも不可能ではありません。内申点も絶対評価を取り入れるようになってからはインフレ気味で差がつかず、正直言って学校間格差もあります。結局、真の実力を計る尺度は入学試験の得点しかありません。その得点が満点に近いところに集中していれば合否の判断は難しくなります。このこと故の独自入試だったはずが、それが廃止されるといふことはどのようなことになるのかは、推して知るべしです。入学試験問題が全体的に難化すること以外ありませぬ。これからの高校入試は、実力勝負の時代に入ることになるのは必至です。来年度から中学の教科書は分厚くなり、裏面を参照ください。公立高校への進学を希望する生徒の皆さんは、真の実力を養うための学習を日頃から心がけるべき時代に入ったことを肝に銘じる必要があります。(舟本)

新教科書を 前編 斬る!

今年度より一足先に導入された小学校に続いて、**2012**年度より中学校教科書の全面改訂が行われます。「ゆとり教育」を旗印に行われた現行の学習指導要領の導入から**10**年。

OECD加盟国間で**3**年ごとに実施される学力調査 **PISA**において、日本は着々とランキングを下げてしまいました。特に「読解力」・「数学的リテラシー」・「科学的リテラシー」の**3**分野における凋落ぶりは目を覆いたくなるほどのものとなり、その対策を迫られた結果が今回の改訂に大きく影響していることは明らかです。「詰め込み教育」に対する批判や、落ちこぼれ・いじめ問題までを楯に、大幅な内容の削除を断行した前回の学習指導要領の導入とそれに伴う現行教科書への移行は、週**5**日制導入ありきの下に行われた改悪であったと言わざるを得ないでしょう。

今回の改訂では、前回大幅に削除された理数科目の内容がほぼ復活することをはじめ、各教科の教科書が大きく変わります。**2002**年度以前の内容に戻ることにとどまらず、各出版社が競って「発展内容」を織り込んでいるのです。これまでの指導要領が「上限規定」であったのに対して、新学習指導要領が「下限規定」となったことに起因するものです。つまり、今までは「ここまでしか教えない」というものだったのが、「最低ここまでやれば発展的内容は自由に扱って良い」という方針に大きく舵を切り替えたわけです。結果、新しい教科書のページ数は過去のどの改訂時よりも著しいページ数増となっています(右図参照)。



10年前の改訂時に新しい教科書を見て、「雑誌かカタログみたいだな」と思ったことを思い出しました。今回の改訂では、間違いなくそれは教科書であり、それも参考書のような教科書に仕上がっていると言えます。

教科ごとの変化について見ていくことにしましょう。まずは英語について。「話す・聞く」に偏重していた現行の指導要領から「聞く・話す・読む・書く、の**4**機能を総合的に行う学習活動の充実を図る」という大きな方針の変更があり、これによって文法的な説明にかなりの部分が割かれ、それに対する練習問題も大幅に増えています。また、いわゆるリーディング用のページも出版社によっては**5**割程度の増加があり、入試などで頻出となっている英問英答のパターンの問題も掲載されています。さらに、**3**年間で取り扱う単語が現行の**900**語から**1200**語へ増え、そこから派生するフレーズも時代を反映した「Cool!」なものとなっています。

数学は、「理数教育の充実」という文科省の方針変更を受けて、計算力の強化を狙っていることが伺えます。**3**年分の教科書合計で**4**～**5**割の練習問題数の増加ということもさることながら、その内容も難化しています。計算式の項の数が増えたり、計算結果が複雑なものになる問題が意図的に選択されています。計算問題以外でも、例題として扱われる問題が高校入試レベルといえる問題だったり、複雑な立体を取り扱ったりと、難化が顕著と言えるでしょう。「下限規定」の新学習指導要領の下で、こうした高度な内容をどこまで扱えるのか、中学校の先生方は悩みが付きにくいことと思います。「教科書内容にもついていけない」という生徒が続出しなことを祈るのみです。

国語の教科書は、今回の改訂で最もページ増分が多くなりました。常用漢字に新たに**196**字が追加されます。憂鬱(ゆううつ)・山麓(さんろく)・腎臓(じんぞう)・稽古(けいこ)なども学習するべき漢字として扱われます。その他、文学的文章の扱いについて、従来は鑑賞中心であったものを、説明的文章と同様に客観的に読みとらせるという指針も織り込まれています。また、文章要約なども課されますので、新年度からの各中学校の定期テストに少なからず影響が出ることでしょう。

社会は「地理」・「歴史」・「公民」という従来のスタイルを踏襲するものの、その内容は確実にボリュームアップしています。地理では、現行指導要領の目玉でもあった「調べ学習」に偏重した内容から一転し、世界地理・日本地理ともに諸地域をきちんと学習していく旧来の方針に回帰します。また、**PISA**型といわれる統計資料を読みとる力を問う問題も随所に見られ、他分野との融合などと合わせて、教科の中で重点化が図られることは必至です。特筆すべきは歴史において「世界史」が復活したことです。四大文明や産業革命など、覚えるべき事柄が大幅に増えています。生徒にとって確実に負担増となると考えられます。

理科は、今回の改訂で最も劇的な変化を見せます。まず、現行の「第**1**分野上・下」・「第**2**分野上・下」という**3**年間で**4**分冊であった教科書が、「中**1**理科」…と学年ごとの編集となります。また「ゆとり教育」の敵のような扱いを受け、前回の改訂で大幅に削減された内容がほとんど復活することになります。さらに、**2006**年のマイナーチェンジ等で追加された内容はそのまま残ることとなりますので、**2002**年以前と比べても内容は増えていることとなります。「理数教育の充実」の旗を掲げるだけあって、教科書の編集も本文以外の「発展内容」が豊富です。写真や図版を駆使して、興味をひこうという意図は十分に伝わってくるのですが、情報過多の傾向が否めず、必要なものとそうでないものをどう取捨するか、指導には頭を悩ませそうです。

各出版社の教科書はどれも単なる見かけのボリュームアップにとどまらず、内容的にも新学習指導要領のコンセプトを積極的に取り入れた意欲作と言えると思います。問題はそれをどう扱うかにあります。予想される問題点、また、**S H C S H 1 N**ではどう対応するのか。それらについては後編にて稿を認めたいと思います。(文責：榎原)

新年度のお知らせ

新

家族でアタック!

No. 1

新年度説明会

2012年度の授業の内容、教育方針などについてご説明いたします。ぜひご参加ください。

○中学受験新年度説明会 第**回** 12月17日(土)

※時間は13:00~14:00になります。

		12			
17	12	4 () 6	1		3
18		5YT ()	2		
19	12	2	3	6)	
20			22	4	
21				5	
22				6	
23				7	4 5
24		4 5 6	3	8	
25				9	1 2 5 6
26				10	2 13
27				11	
28				12	
29				13	
30				14	4 5 6
31		1/3		15	
				16	
				17	5 20